

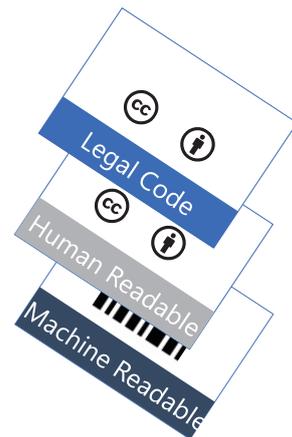
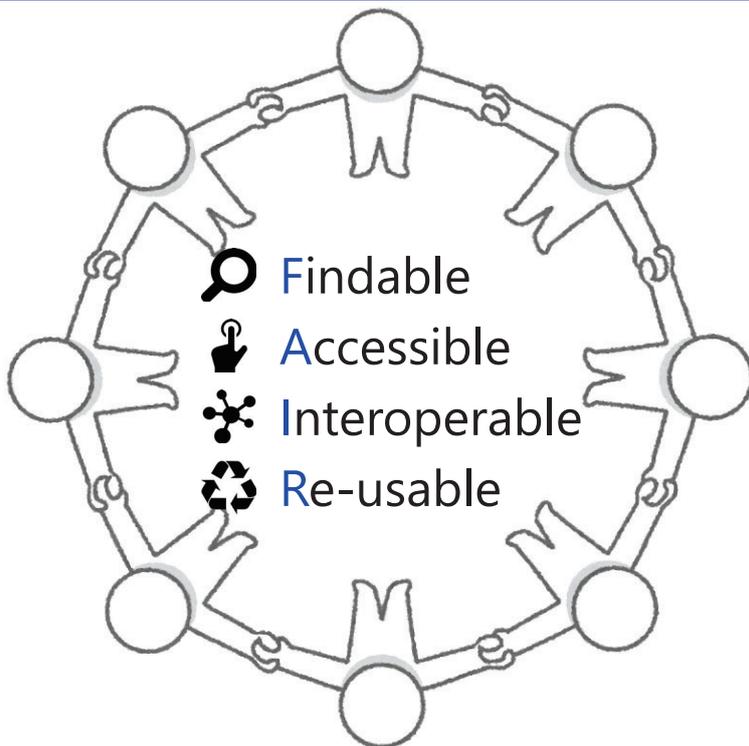
新設「オープンサイエンス・オープンデータ研究部会」 に参加してみませんか？



研究データ公開は重要
だけど...



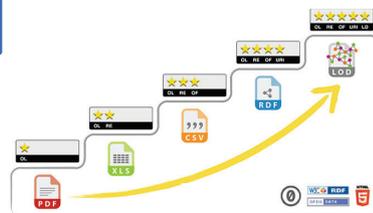
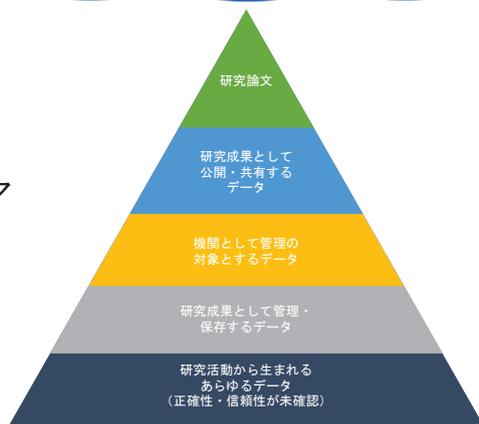
知見や
事例の積み重ねが大事
(論文誌のエビデンスデータ
必須化などでもきたらよいかも)



権利処理
個人情報保護
検討が必要なが
いっぱい



Open Science Open Data



関連付けや利用統計
研究データ利活用に向けた
取り組みも必要

識別子とメタデータの検討

組織としての検討

研究データの保有者・利用者 すべての人達の情報交換と相互協力の場

目的：研究データの把握・蓄積・保存・共有・流通・利活用など、OSとOD全般に関してコンテンツよりの視点での研究を促進。情報交換の場を提供し、会員相互の交流を図り、オープンサイエンスの推進に貢献することを目的とします。

活動内容：

1. 研究会、講演会などを随時開催致します。
2. 会誌の積極活用を図ります。
3. 関連する学会・研究会や組織との交流を行います。
4. その他、この会の目的達成に必要な活動を行います。

オープンサイエンス・オープンデータ (os-od) 研究部会：

世話人：高田良宏 (金沢大学、代表世話人)、堀井洋 (合同会社AMANE)、
林正治 (国立情報学研究所)

メール：sig_os-od@ml.kanazawa-u.ac.jp Webサイト：http://www.jsik.jp/?os-od



オープンサイエンス・オープンデータ研究部会

設立趣旨：

学術論文だけではなく研究データも公開することで、科学の新しいスタイルを構築しようとするオープンサイエンスが注目を集めており、研究データを FAIR 原則^{*1}に従って公開すること（FAIR データ化）の推進はますます重要になってきました。しかし、研究データの FAIR データ化は一部の分野では進んでいるようですが、十分に普及されているとは言いがたいのが現状です。

研究データを適切な形で公開することのメリットは非常に大きく、デメリットを上回ることは確実であり、各所で情報共有基盤の開発が進んでいますが、すべてを網羅する情報共有基盤は存在しません。研究データと一口に言っても、歴史資料、考古資料、民俗資料、社会データ、自然史資料、実験観測データなど多種多様であり、コンテンツよりの視点で実践的な概念および手法の検討を行い、蓄積・共有・利活用などの事例を増やしていくことが重要です。また、物資料や生のデータを研究データとして共有するためのコンテンツ化（デジタル化、整理・登録作業等）にかかるコストや人材の議論も必要です。さらに、研究データを社会に共有する際に不可欠な、権利処理や個人情報保護などの対策もコンテンツの種類によって異なることも忘れてはなりません。

このような現状に対処するため、FAIR 原則の考え方に基づいたオープンサイエンスとオープンデータを情報知識学の立場からコンテンツよりの視点で議論するため、研究データの保有者／利用者およびオープンサイエンスに関心をもつ人達の情報交換と相互協力の場として「オープンサイエンス・オープンデータに研究部会」設立いたします。

*1: 「FAIR Data Principles」。FAIR は、Findable（見つけられる）、Accessible（アクセスできる）、Interoperable（相互運用できる）、Reusable（再利用できる）の略で、データ公開の適切な実施方法を表現している。

2019年9月16日

目的：

オープンサイエンス・オープンデータ研究部会は、研究データの把握・蓄積・保存・共有・流通・利活用など、オープンサイエンスとオープンデータ全般に関してコンテンツよりの視点での研究を促進し、情報交換の場を提供し、会員相互の交流を図って、オープンサイエンスの推進に貢献することを目的と致します。

活動内容：

1. 研究会、講演会などを随時開催致します。
2. 会誌の積極活用を図ります。
3. 関連する学会・研究会や組織との交流を行います。
4. その他、この会の目的達成に必要な活動を行います。

設立世話人：

世話人：高田良宏（代表世話人：金沢大学）、堀井洋（合同会社 AMANE）、
林正治(国立情報学研究所)